

第3回包装近未来シンポジウム

— 国連SDGsから見た食品ロスへの取り組みと企業のチャレンジ課題 —

- 開催日：平成28年3月9日(水)
- 会場：公益社団法人日本包装技術協会 会議室
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

開催にあたって

近年、いろいろな分野で“サステナブル”に対するグローバルな取り組みが活発化しています。国連では“望む未来”への持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals—SDGs—）を定め、また、世界の主要食品メーカーや流通企業約400社が参加するザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム（CGF）では、2025年までに食品ロスを半減する方針を決定し、各々取り組みを始めています。こうしたグローバルな動きの中で、日本でも産官学に消費者を加え、この食品ロス削減を社会的問題としてとらえ、各々の取り組みが始まっています。

今回のシンポジウムでは、包装に関連したいろいろな分野から専門の方々をお迎えし、この問題への取り組みについてお話しをおうかがいします。この機が、サステナブル社会の構築のため、食品ロス削減をはじめとする各種課題に包装はどのような役割を担い、今後どのような取り組みを行っていくべきなのかにつきまして、一層の認識を深め、これからの包装の開発や考え方の一助となっただけであれば幸いです。

講演者・パネリストの紹介

■徳田 由香 氏

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド
啓発活動担当

筑波大学国際総合学類卒。在学中よりボランティアとして活動に参加。企業などでの勤務を経て、2009年より現職。私たちの暮らしや食生活から世界の飢餓や食料問題について考えるイベントやワークショップの企画・運営などを担当。「フードロス」の解決に向けて、生活者や企業、行政、生産者、NGO/NPO、行政などの様々なプレーヤーが社会変革を志す「フードロス・チャレンジ・プロジェクト」にも実行委員会メンバーとして参加している。

著書：「世界から飢餓を終わらせるための30の方法（ハンガー・フリー・ワールド編著、合同出版）

■井出 留美 氏

株式会社 office 3.11 代表取締役

女子栄養大学／石巻専修大学 非常勤講師

世界13億トンの食品ロスの削減を目指す食品ロス問題の専門家。ライオン入社後、ボランティア体験を基に提言したコンテストで準優勝。「人の役に立ちたい」と退職、青年海外協力隊参加。

帰国後、日本ケロッグ入社。広報室長と社会貢献業務を兼任、余剰食品を困窮者に活用するフードバンクへの支援を開始する。

3.11の食料支援時、理不尽な大量廃棄に憤りを覚えて退職。人生の転機となった誕生日を冠したoffice 3.11設立。

フードバンク広報の依頼を受け、NPOとして史上初のPRアワードグランプリソーシャル・コミュニケーション部門最優秀賞や農林水産省食品産業もったいない大賞食料産業局長賞へと導く。独立後のメディア出演はNHKや日経新聞等170回。

埼玉県川口市で川口市議会副議長や市議、県庁職員、商店街振興組合理事長、パン屋、NPOなどを集めて「食品ロス削減検討チーム川口」を主宰。会長として、毎月の定例会や、余剰食品を集めて困窮者に活用するフードドライブを実施している。

消費生活アドバイザー（内閣総理大臣及び経済産業大臣事業認定資格）

博士（栄養学）／修士（農学）

著書「一生太らない生き方」（ぴあ、2014）、「四快のすすめ」（共著）

■西川 洋一 氏

レンゴー株式会社 段ボール・紙器・軟包装部門 開発本部
包装技術部 東京包装技術第一課 課長

1992年 レンゴー(株)入社

1992年 パッケージ・デザインセンターに配属

パッケージやセールスプロモーションツールの企画・構造設計・デザインに従事

2005年以降、社内外の包装開発プロジェクトに多数参加
包装専士

■原岡 哲也 氏

郵船ロジスティクス株式会社 総合開発営業部
SCMソリューション課 課長補佐

東京大学経済学部卒業後、大手国際物流企業勤務を経て英国クランフィールド大学にてLogistics & Supply Chain Managementの修士号(MSc)を取得。物流コンサルティング、サウジアラビアでのプロジェクトマネージャーを経て2009年(株)MTIIに入社し、日本郵船グループの物流技術の研究開発および商品開発に従事。

著書：寄稿「AGRIO 9月号」など

■後藤 敏彦 氏（企画委員）

NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事

認定NPO法人環境経営学会会長、NPO法人社会的責任投資フォーラム最高顧問、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、など。

環境省事業／環境情報開示基盤整備事業検討会座長／環境口コミュニケーション大賞検討会座長・審査委員／Eco-CRIP事業検討会座長など複数委員会の座長・委員を務める。元大手損保会社勤務、元GRI運営委員・理事、東京大学法学部卒。

著書：『ISO26000 実践ガイド』（2011 共著、中央経済社）

他多数

■有田 俊雄 氏（企画委員）

有田技術士事務所 所長

1956～1976年 日本パルプ工業(株)(現 王子製紙(株))、1976～1997年 ダイバパッケージジニング(株)(現 三菱商事パッケージジニング(株))を経て、1997～2007年 米国Packaging Strategies社日本代表、2007～2014年 (株)パッケージジニング・ストラテジー・ジャパン取締役社長。2015年以降、現職。2005年米国包装功労者として包装殿堂入り、2013年JPI「長年包装人材の育成に貢献」表彰。Institute of Packaging Professionals(USA)会員、International Packaging Press Organization(IPPO)名誉会員。現在はグローバル・パッケージジニング・コンサルタントとして、海外ネットワークおよび海外定時定点観測をベースに、先端技術探索、市場調査、技術提携、人材交流を通じて、企業間オープンイノベーションの橋渡し役を務める。「生涯・包装人」として、「食品ロス削減に向けた包装の役割」、「2030年包装未来予測」を提唱中。東京大学・工学部・応用化学科卒業。

■住本 充弘 氏（企画委員）

住本技術士事務所 所長

2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。

日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員

技術士（経営工学）、包装管理士、業界誌に執筆多数

プログラム

時 間	テ ー マ	講 演 者
10:10 10:50	<p>「SDGsの背景と意義 —日本企業への影響—」</p> <p>歴史では2015年は人類にとって文明的転換がなされた年として語られるといわれている。20世紀後半から世界ではサステナビリティについて様々な取組がなされてきた。その集大成として2015年にパラダイム・チェンジがなされたのである。</p> <p>具体的には、2015年9月の国連総会での「持続可能な発展のためのアジェンダ2030(SDGs)」と12月の気候変動枠組条約CoP21での「パリ協定」の採択である。</p> <p>近代が始まってから文明の方向性(ベクトル)は「(無限を前提とした)進歩」であったが、上記の2つにより世界193カ国は「(有限を前提とした)持続可能な発展」に方向転換したのである。ここ数年の世界の環境・CSRの動きと共に、そうした意義と今後の取組について解説する。</p>	<p>NPO法人サステナビリティ 日本フォーラム 代表理事</p> <p>後藤 敏彦 氏</p>
11:00 12:00	<p>「世界の食料ロス・廃棄の現状と解決に向けた取り組み」</p> <p>2011年に国連食糧農業機関 (FAO) が発表した報告書によると、世界では毎年、人が食べるために生産された食料の1/3が捨てられている。その一方で、すべての人が食べられるだけの食料が生産されているにも関わらず、7億9500万人が飢えている。このような現状のなか、2015年に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (SDGs)」では、目標12に「持続可能な消費と生産のパターンを確保する」が掲げられ、「2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料廃棄を半減させる」ことを目指している。</p> <p>世界の食料問題の解決に向けて重要な世界の食料ロス・廃棄について、現状や解決に向けた取り組みを国際協力NGOの視点も含めて紹介する。</p>	<p>特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド 啓発活動担当</p> <p>儘田 由香 氏</p>
13:00 13:45	<p>「食品ロスの現状と削減のために食品企業にできること」</p> <p>食品メーカーで14年5か月、フードバンクで3年の経験を持つ講師が、現場での経験を元に、食品ロスの現状と、削減のために食品事業者および生活者としてできることについてお話する。</p>	<p>株式会社 office 3.11 代表取締役 女子栄養大学／石巻専修大学 非常勤講師</p> <p>井出 留美 氏</p>

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 (その他NPO代表 委員多数)
- 有田 俊雄 氏 有田技術士事務所 所長
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

時 間	テ ー マ	講 演 者
13:50 14:35	<p>「日本の流通に対応する包装開発について」</p> <p>近年、日本の高齢化や共働き世帯の増加により、生活必需品を中心に消費者の購買行動が変化し、流通業界は変革を求められている。その大きな潮流として店舗を有さないネット通販の台頭が挙げられる。これまで主流であった店舗を構える流通は無店舗販売の価格競争に巻き込まれ、人件費を含めた経費を削減し、対抗策を講じる傾向にある。また国内で深刻化する人手不足も相乗作用となり、店舗オペレーション不備を発端として多様な問題が生じている。今回はこうした流通における課題に対して、パッケージを活用した解決手法の一例を紹介する。</p>	<p>レンゴー株式会社 段ボール・紙器・軟包装部門 開発本部 包装技術部 東京包装技術第一課 課長 西川 洋一 氏</p>
14:40 15:25	<p>「食品輸出の課題とフードロスにチャレンジするCA輸送技術」</p> <p>TPP締結など一層の国際貿易活性化が見込まれる中で、日本からの輸出産品として食品、とりわけ日本産農産物の輸出が注目されており、官民一体で輸出促進が進められています。一方、国際輸送では食品の品質を維持する上で様々な課題があり、多くの農産物は長い輸送期間、特に海上輸送中の鮮度を保つ事が困難です。郵船ロジスティクスでは海上コンテナ内の空気組成を調整制御するCA (Controlled Atmosphere)技術などの鮮度保持技術を積極的に活用しており、本シンポジウムでは新たな市場拡大の可能性を広げるとともに商品のロス率を改善し、食品破棄の削減が期待できる輸送技術についてご紹介いたします。</p>	<p>郵船ロジスティクス株式会社 総合開発営業部 SCMソリューション課 課長補佐 原岡 哲也 氏</p>
15:35 17:20	<p>パネルディスカッション</p> <p>「2016年を起点とするパッケージングの新たな成長機会を探る」</p> <p>【司会進行】 有田技術士事務所 所長</p> <p>【パネリスト】 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 啓発活動担当 株式会社 office 3.11 代表取締役 女子栄養大学/石巻専修大学 非常勤講師 レンゴー株式会社 段ボール・紙器・軟包装部門 開発本部 包装技術部 東京包装技術第一課 課長 郵船ロジスティクス株式会社 総合開発営業部 SCMソリューション課 課長補佐 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本技術士事務所 所長</p>	<p>有田 俊雄 氏(企画委員)</p> <p>儘田 由香 氏 井出 留美 氏 西川 洋一 氏 原岡 哲也 氏 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)</p>

開催要領

- 日時：平成28年3月9日(水) 10:00~17:20
- 会場：(公社)日本包装技術協会 A会議室
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
- 参加費：会員 18,360円(消費税8%、テキスト代含む)
*同時に3名以上でお申込みの場合には
割引価格として1名15,120円
一般 27,000円(消費税8%、テキスト代含む)
- 定員：80名

会場案内



- 東京メトロ日比谷線・東銀座駅下車徒歩5分
- 都営地下鉄浅草線・東銀座駅下車徒歩10分

申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。
協会HPからのお申込みも出来ます。
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

第3回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. _____

会社名					
所在地	(〒)				
電話				FAX	
参加者	氏名			所属 役職	e-mail
	氏名			所属 役職	e-mail
	氏名			所属 役職	e-mail